

アジアへ！ 開かれる北海道

北海道経済部観光局

1 平成 21 年 12 月 1 日（火）午前 9 時

「乾杯！」

シャンペングラスを片手に、笑顔を浮かべる方々の輪の中央にいるのは、北海道の高橋はるみ知事です。

北海道と台湾は、観光などを中心に近年交流が盛んになってきており、台湾外交部では、東京、大阪、福岡、横浜、那覇に次ぐ日本における 6 番目の拠点として、台北駐日経済文化代表処札幌分処を開設されました。昨年 12 月 1 日の開所式・除幕式には、台湾から王 立法院長（日本の国会議長に相当）ほか台湾議会議員団がお越しになり、道からも知事をはじめ地元関係者をご招待いただきました。写真はそのとき的一幕です。

札幌分処の開設により、経済、産業、貿易、文化などの分野において台湾、北海道相互の交流がより一層促進されるほか、台湾の方々に大変人気のある北海道との観光交流についても、ますます強化されるものと期待されます。台湾の領事的なサービスも提供しますので、北海道を訪れる旅行者の利便性の向上や滞在中の安全確保などの面で



台北駐日経済文化代表処札幌分処開所式

も大きな役割を果たされることでしょう。

地元北海道側でも、特に観光関係者の期待は大きく、(社)北海道観光振興機構も札幌分処の開設準備の段から、テナント情報の提供をはじめ、できる限りの協力を続けてまいりました。その結果というわけではありませんが、北海道観光振興機構の入居しているビルと同じビルに入居することとなり、相互の観光交流を展開していく上で、お互いにいつでも緊密に連携が取れる、願ってもない立地となりました。今後、両地域の観光交流が飛躍的に深まるものと期待されます。

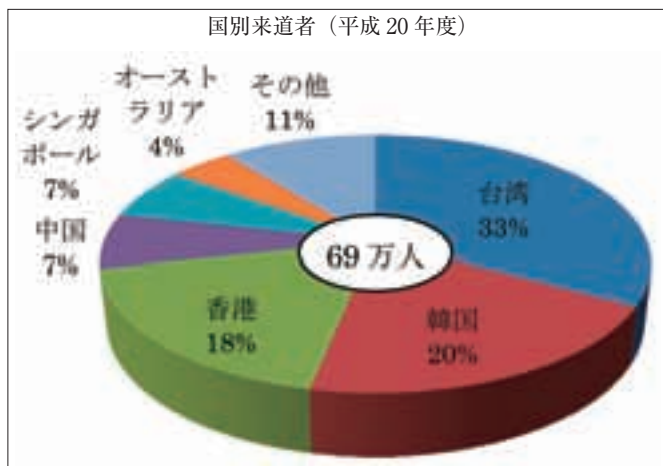
2 北海道観光最大のお得意様「台湾」

冬の北海道を代表する一大イベント「さっぽろ雪まつり」。メイン会場である札幌大通公園を歩くと、行き交う人々の顔は我々日本人と大差なく見えるのですが、なにか日本語でない言葉ばかりが耳に入ってきます。もちろん日本の方もいらっしゃるのですが、あちこちで聞き慣れない、というか最近をよく耳にするので、正確には意味がわからない言葉が飛び交っています。そうです。ここ北海道は最近、アジアからのお客さまがすごく増えているのです。

平成 20 年度に北海道を訪れた外国人は約 69 万人。リーマンショックなどの経済危機や円高など影響で、前年よりは若干減少とはなりましたが、それでも 5 年前の 2.5 倍くらいに増えています。その約 9 割がアジアからのお客様で、台湾がその中の筆頭。全体の約 1/3、約 228 千人の台湾の方がお越しくださいました。

台湾からのお客様は、新千歳空港など道内空港へのチャーター便が増え始めた 10 年ほど前から急速に増加し、平成 15 年に新千歳—台北間に定期便が就航すると、翌 16 年度は 20 万人を突破し、

平成 19 年度には 28 万人近くにまで拡大しました。現在は、エバー航空、中華航空ともに定期便が毎日運航し、多くの台湾の方にお越しいただいています。



ご存じのとおり、北海道は雪国でありますので、暖かい台湾に住む方々からすると、「冬」、「雪」というだけで、大変関心を持っていただけたようです。また、雄大な北海道の自然を眺め、温泉でゆっくりするという旅行スタイルも、台湾の方々の嗜好に合ったようです。最近では、冬期間のみならず、北海道は夏が爽やかで気持ちいい季節でありますので、灼熱のアジアの国々から多くの方々が北海道を目掛けてやってきます。道として力を入れている「花観光」も夏の北海道の人気メニューで、ラベンダーなどで有名な富良野・美瑛地区をはじめ、芝ざくら、ヒマワリ畑など全道各地の花畑でアジアの方々の姿を見られるようになりました。



数々の花に彩られる夏の風景

3 国内初！ 台湾の銀行との提携

北海道を訪れる外国人が増えて来ると、同時にいろいろな課題やニーズも浮き彫りになってきますが、外国人が日本を旅行中、現金を引き出せなくて不便だという声がしばしば聞かれるようになってきました。日本の銀行は一般に海外の銀行と決済システムを共有していないことから、外国人は日本の銀行や ATM で自国の自分の口座から現金を引き出せません。最近はクレジットカードが普及してきていますが、現金へのニーズは根強くあるようです。

この点に着目した北海道に地盤を置く北海道銀行は、台湾の主要銀行 9 行と提携して、北海道銀行が道内に設置した専用 ATM でこれらの銀行の口座から日本円の引き出しができる日本国内では初のサービスを、今年の 1 月から開始しました。これらの 9 行に口座を持つ台湾の旅行客が台湾 FISC（Financial Information Service Co. Ltd.～台湾国内銀行全 361 行が加盟する銀行間ネットワークシステムを運営）加盟銀行キャッシュカードを利用して、これらの ATM から現金引き出しを行うと、日本円で引き出しができ、同時にその額が台湾ドルに換算され、即日、自国の銀行口座から引き出しされます。

また、北海道銀行の子会社である道銀カード(株)が提携する道内加盟店において、これらのキャッシュカードでデビットカードサービスが受けられるようになりました。



デビット決済システム端末

1月27日には、北海道銀行主催の「台湾 FISC・ATM およびデビットカード提携」の開始記念式典と記念パーティが開催され、台湾側の提携銀行各行のトップが札幌に一堂に会しました。地元からも高橋知事、上田札幌市長などご招待いただき、台湾と北海道との交流強化に向けたこの画期的な一歩を、ともにお祝いいたしました。

この提携により、北海道を旅する台湾からの旅行者の方々の利便性が高まり、安心して快適に広い北海道をゆっくりと楽しんでいただけるものと大いに期待しています。



提携記念パーティの様子

4 新千歳空港に国際線旅客ターミナルが新たにオープン

北海道の空の玄関口である新千歳空港からは、現在、アジアを中心に9つの都市に国際線が就航し、チャーター便も合わせると2009年は80万人近い旅行客が利用しています。現在の空港ターミナルビルが供用開始された1992年当時は、まだ国際線需要も少なく、専用のターミナルビルを持たずに運用を開始。これまで非常に限られたスペースを国際線ターミナルとして利用しておりましたが、国際線の路線・利用者の拡大に伴って、施設が手狭になっておりました。



新千歳空港からの国際線路線 (2010年3月現在)

このような状況が、いよいよこの春、大きく変わります。2010年3月26日、北海道民待望の新千歳空港新国際線旅客ターミナルがオープンしました。地上4階建ての新ターミナルビルは、延べ床面積で従来の約5倍。旅客処理能力も大幅に改



開放感にあふれた出発コンコース



オープニングセレモニーの様子（3月26日）

善します。チェックインは航空会社別ではなく共用チェックインカウンターでばらつきのないスムーズな取扱いが可能。手荷物検査も国内では成田空港、関西国際空港などでしか導入されていない「インライン検査方式」を採用。これによりチェックイン前の機内預け手荷物検査が不要となり、利用者の手間と待ち時間が格段に短縮されます。外光をふんだんに取り入れた吹き抜けの空間は、快適な空の旅のスタートにふさわしい開放感を演出します。

また、新ターミナルは環境への取り組みとして様々の工夫が凝らされています。主なものを以下に紹介します。

①天然ガスへの転換

（隣接する苫小牧市で採掘）

②コージェネレーションの採用

③雪冷熱エネルギーの活用

特に雪冷熱エネルギーは、冬期間の雪を保存し、冷房に利用するもので、北海道ならではの省エネルギーシステムとして非常に注目されています。

この未来を見据えた新しい国際空港ターミナルのオープンにより、外国人来道者年間100万人の時代への態勢は整いました。是非多くの外国人旅行者の方々に、ここから素晴らしい北海道の旅の思い出を刻んでいただきたいと思います。

今、北海道は、アジアの方々に「非日常」を提供する憩いの訪問地となるべく、新たなステップに入ろうとしています。本稿でご紹介したように台湾の銀行とのATM提携、新たな国際線ターミナルなど、今年に入ってから国際観光地としての大きなニュースが目白押しです。

台湾をはじめ、アジアの大半の国・地域と気候も風土も大きく異なる北海道。これからもそのメリットを活かし、「アジアのオンリーワンな場所」として進化していきたいと思っています。アジアに向けてますます開かれていく北海道にご注目ください。

